

引つ越しを二度ともにせる核家族十九年目のぬか床  
捨てつ 谷ちえみ

久々に核家族という言葉聞いたような気がする。核  
家族とわざわざ断っているのは、最初からこのぬか床は  
主婦である作者の責任のもとにあった、の意味だろう。  
十九年といえは、個人の単位では長い歴史である。その  
間ずっと親しんできたぬか床。「捨てつ」という素つ気  
ない言い方が印象的である。

七年も勤務しながら今もお病院内に知らぬ場所あ  
り 高橋秀

職場である病院との微妙な違和感をていねいにうたつ  
てきた作者。病院という不思議な空間ならば、こういう  
こともあるだろうと思わせる。「七年」という数詞が説  
得力をもたらしている。

連結の部分が一番揺れやすい電車あなたと私のここ  
ろ 福永昭子

比喩が単純で分かりすぎる感じが気になるが、「……  
電車」のところで句切れになるいわゆる句切れの構成が  
特色になっており、これはこれでいい、と読んだ。理屈  
を言えば、揺れやすいけれども絶対に切れることはない  
い、そんな意味も読める。

透明な器に流行りの色を塗り人群れの中をふわふわ  
歩く 熊田新子

「透明な器」とは自分の意味だろうか。流行の服や流  
行の化粧品等を身につけてふわふわ街を歩いているの

だ。しかし、読み方によつては、私たちはだれもみな「透  
明な器」として生きている意味とも読める。いずれにし  
ても、かつての農耕社会とはまったく隔絶した都市社会  
の人間を照らし出している。

汗のじむ肌のごとく街の灯を暗く浮かべて流れ  
ゆく川 松本実穂

上二句の比喩のリアリティが勝負どころ。肉体を思わ  
せる汗のイメージが、労働のにおい、あるいはセックス  
のにおいを感じさせる点が独特。「川」は、街中を流れ  
る川だろう。私はまだ、多少明るみの残っている夕暮れ  
の川を思い浮かべた。

入口とも出口とも見え丘陵の街に反照つよき窓あり  
小川祐子

坂の下から斜面にある街を遠く見あげている場面を思  
い浮かべればいいのだろう。「入口とも出口とも見え」  
が、誘惑とか脱出とかといった強い意味ではなく、家人  
が帰る時間、これから出発する気配、そのどちらも思わ  
せる抽象性をもたらしていて、うまい。

「若い手」と言ってくれたる美老女の手と手を握る  
新幹線口 大野道夫

見送りだろうか、これから上下線別方向の新幹線に乗  
るのだろうか。いずれかにしてもそこで握手をした場  
面。「美老女」という珍しくかつ目立つ呼び方、そして「若  
い手」という彼女が発した言葉、どちらも読者に物語を  
感じさせる。